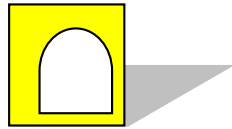


日吉台地下壕保存の会会報



第126号

日吉台地下壕保存の会

総会を終えて

会長 阿久沢 武史

今年も総会の日を迎えることができました。会員の皆様のご理解とご協力に支えられ、28回目の総会となりました。まずは感謝を申し上げたいと思います。

総会に先立ち、新井勝紘氏より「軍事郵便」をテーマにご講演をいただきました。時や場を超えて残された言葉、文字、筆跡、そこにあった人々の思い、それらをしっかりと受け止めることが保存の会の活動の理念に通じることをあらためて認識する機会となりました。総会では前年度の活動報告や今年度の活動方針の提示に加え、「会則」の全部改正に関して提案し、ご了承いただきました。保存の会の現時点での運営や活動内容に照らし合わせ、今回提案させていただきました。詳細については本会報でご確認ください。

さて、今年度の活動方針の柱のひとつに、戦争体験者からの聞き取りがあります。昨年度は日吉地区の空襲被害の実態を調査した資料集『日吉は戦場だった』をまとめました。会には壕内での勤務体験者を含めた膨大な聞き取り記録の蓄積があります。それらを今後の研究やガイド活動に資するために、どのような形でまとめ、公表していくのか、我々に課せられた大きな課題です。

今年はガイド養成講座において、レイテ沖海戦で空母「瑞鶴」に搭乗された元海軍通信兵の方、沖縄水上特攻作戦で「大和」を護衛した駆逐艦「雪風」の乗組員だった方のお話をお聞きしました。加えて私は、海軍の軍属として航空本部地下壕に勤務された方のお話をお聞きする機会も得ました。艦にご自身の運命を委ねた方々の壮絶な体験、壕内で勤務された方の五感を通してよみがえる空気感、そうしたお話をお聞きしながら感じるのは、「話したい、伝えたい」という強い意思をお持ちだということです。それは次の世代に語り伝えたいという使命感ということだけでなく、ご自身の残された「時間」に対する切迫感と言った方がいいのかもしれませんが。

我々がそれをどのような態度で受け止めるのか。単なる調査研究の対象として距離を置いて見るということではなく、やはり体験者の思いを受け止め、我々が代わりに語り、継承して

いくことが何より大事なのではないかと思います。地元根差した市民活動だからこそできること、日吉台地下壕という戦争遺跡があるから見えてくるもの、平和な社会を希求する一市民だからこそできること、いま何をやるべきなのかを真剣に考えながら、今年度も活動を進めてまいりたいと思っております。

目次

巻頭言	総会を終えて 阿久沢武史	1p
お知らせ	第20回全国シンポ松代大会	2-3p
報告	第28回日吉台地下壕保存の会定期総会	3-9p
記念講演	新井勝紘氏講演会の報告 亀岡敦子	10p
報告	2016年第10期ガイド養成講座 佐藤宗達	11p
寄稿	ガイド養成講座に参加して 木村航	11-12p
寄稿	平和のための戦争展 in よこはま 吉沢てい子	12-13p
連載	海外の戦跡めぐり(3)北京の受難 佐藤宗達	13-14p
報告	H28年度地域のチカラ結果報告 小山信雄	14p
お知らせ	港北図書館でパネル展&講演会を開催 小山	15p
チョットひと休み	最近見た珍百景(1) 長谷川崇	15p
お知らせ	資料集1頒布のお知らせ	15p
活動の記録	(4~6月) 喜田美登里	16p

お知らせ**第20回戦争遺跡保存全国シンポジウム長野県松代大会**
近現代の戦争遺跡を調査・保存し、平和のために活用しよう
～「悲しみの砦」を平和のいしづえに～

主催：戦争遺跡保存全国シンポジウム長野県松代大会実行委員会・戦争遺跡保存全国ネットワーク

後援：長野県・長野県教育委員会・長野市・長野市教育委員会、信濃毎日新聞社、朝日新聞長野総局、毎日新聞長野支局、長野市民新聞社、読売新聞長野支局、中日新聞社、SBC信越放送、NBS長野放送、TBSテレビ信州、abn長野朝日放送

大会趣旨：

2016年戦争遺跡保存全国シンポジウムは、長野県松代で開催されます。長野市松代町は、江戸時代真田氏十万石の城下町として栄えた町です。ここにはアジア太平洋戦争末期、戦争遂行のため天皇はじめ大本営や国の主に機関を移す計画で、「松代倉庫工事」と称して掘り進められた巨大地下壕が残っています。

その中の一つ、佐久間象山の生誕地に連なる象山地に掘られた「象山地下壕（イ号倉庫）」(全長5854㍎)の一部が長野市の管理の下公開されており、年間10万人ほどが見学に訪れます。修学旅行・平和学習・歴史学習等の目的で全国から多くの小・中・高校生も訪れ、戦争の実相を学ぶことができる場として活用されています。

地下壕掘削の労働の中心は、強制連行者を含む朝鮮人労働者です。近隣町村からの勤労働員や児童・生徒も動員し、地域の人たちは土地の提供や立ち退きを迫られるなど、有無を言わず黙って協力させられた工事でした。松代での工事が急ピッチで進められているとき、沖縄では本土決戦の時間稼ぎの地上戦が戦われ、兵士よりも多くの住民が犠牲になり、今もなお基地の苦しみを強いられています。

松代大本営跡は悲しい歴史をたくさん抱えています。戦争遂行のためにどんなことがあったのかを学び、平和な未来について深く考えることのできる遺跡です。

こうした戦争遺跡を、平和のために保存・活用しようと1997年、「戦争遺跡保存全国ネットワーク」が結成され、毎年シンポジウムを開催して学習・交流を深めてきました。残念ながら松代の地下壕群はまだ文化財に指定されていませんが、この間、全国で行政の指定・登録を受けた戦争遺跡は230件余になりました。

第20回目の記念となるシンポジウムを初回の開催地松代で開催することになりました。運動の20年を振り返り、戦争遺跡保存の課題を学び、交流する機会となるよう、多くの皆様のご参加を期待し、シンポジウムを開催します。

開催日と会場：2016年8月20日(土)～22日(月) 長野県長野市松代町

松代文化ホール(全体会) 〒381-1231 長野市松代町松代 515-2 TEL026-278-4373

松代公民館(分科会) 〒381-1231 長野市松代町松代 4-3 TEL026-278-3912

会場への交通案内：

- ・JR長野駅から：路線バスで約30分(30分毎)・松代八十二銀行前下車 大人650円
- ・JR篠ノ井駅から：路線バスで約25分・松代郵便局前下車(朝夕のみ7往復)大人450円
(お問合せ:アルピコ交通 026-254-6000)
- ・車でお越しの方：上信越道長野インターから約10分
駐車場は松代城跡駐車場(無料・各会場まで徒歩7～10分)をご利用下さい。

日程と内容:

2016年8月20日(土) (於 松代文化ホール)

- I 開会前行事(事前申込者) 10:00～現地見学会① 象山地下壕見学
「キムの十字架」上映会
- II 全体会 受付 12:00～ 全体集会 13:00～
記念講演 和田 登氏 「発想の現場としてのマツシロ～私の取材ノートから～」
朗読劇 「女たちのマツシロ2016」
基調報告 出原 恵三(戦争遺跡保存全国ネットワーク共同代表)
地域報告
- III 全国交流集会(於 松代ロイヤルホテル 18:00～)

2016年8月21日(日) (於 松代公民館)

- I 分科会 9:00～15:10
分科会①「保存運動の現状と課題」
分科会②「調査の方法と整備技術」
分科会③「平和博物館と次世代への継承」
- II 閉会集会 15:30～16:00

2016年8月22日(月) 現地見学会② 9:00～12:00

記念講演講師紹介: 和田 登氏

1936年1月1日、長野市生まれ。日本児童文学者協会評議員。信州児童文学会会長。黒姫童話館館長。信州大学教育学部在学中から執筆活動をはじめ、卒業後は小学校に勤務の傍ら児童文学中心に数々の作品を書き継いできた。松代大本営に関する地道な調査に基づいて書かれた「悲しみの砦」で第一回塚原健二郎文学賞を受賞し、「キムの十字架」、岩波ブックレット「松代大本営」など多くの松代大本営関連の著書がある。また、満蒙開拓に関する著作も多く最近では「望郷の鐘」が映画化された。著作は単著100冊にのぼるが、作品には常に人類のしあわせと平和への願いが込められている。

報告

総会議案

第28回 日吉台地下壕保存の会
講演会・定期総会

日時: 2016年6月4日(土) 12:30 開場

場所: 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎シンポジウムスペース

主催: 日吉台地下壕保存の会

※以下の議案はすべて異議なく承認されました。

2015年度活動報告

◇会員数: 個人370名 交換・寄贈団体: 65団体

◇定期総会開催: 第27回 2015年6月6日(土) 来往舎大会議室

記念講演 『横浜の戦争遺跡—いくつかの実地検分からの報告—』

吉田鋼市氏 横浜国立大学名誉教授(建築史)

◇運営委員会開催: 2015/5-2016/3 11回

◇会報発行: 5回 120号(4/30)～124号(2/10)

◇地下壕見学会: 2015/4-2016/3 68回 2,605人

◇ガイド学習会：2015/4-2016/3 6回 菊名フラット

見学会ガイドの連絡・学習会。前年度の『ガイドポイントマニュアル』に続き今年度は『資料集1 日吉は戦場だった—三度にわたる日吉の空襲の記録—』を作成した。

◇第20回平和のための戦争展inよこはま：

2015年5月29日(金) - 31日(日)

神奈川県民センター 展示参加 日吉台地下
壕紹介・日吉地域の空襲被害等

◇日吉台地下壕の報道関係者向け特別公開：

2015年6月23日(火)

NHK、朝日新聞、AP通信社など17社(21部署)のマスコミ各社に対する日吉台地下壕の特別公開が行われ、当日夕方のTVニュース、翌朝の新聞等で大きく報道され、AP通信社経由で世界500社以上の通信社にも配信された。



長谷川副会長による挨拶

◇港北図書館パネル展示会・講演会：展示会

2015年8月1日(土) - 16日(日)

ミニレクチャー 2015年8月2日(日)、8月16日(日)、講演会 8月9日(日)

◇第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム千葉県館山大会に参加

2015年9月5日(土) - 7日(月) 千葉県南総文化ホール・館山市コミュニティセンター(参加者 350名)

主催：戦争遺跡保存全国ネットワーク、第19回戦争遺跡保存全国シンポジウム
千葉県館山大会実行委員会 共催：NPO法人安房文化遺産フォーラム

9/5：大会実行委員長(松苗禮子氏)による「開会セレモニー：富田先生の青い目の人形」、
韓国光州市美術館名誉館長(河正雄氏)による「記念講演：平和と文化と戦後70年の祈り」、
戦跡全国ネット運営委員会共同代表(十菱駿武氏)による「基調報告：戦後70年を迎えた戦跡保存」、
全国ネットワーク会員総会、全国交流会

9/6：分科会 第一分科会「保存活動の現状と課題」
第二分科会「調査の方法と整備技術」
第三分科会「平和博物館と次世代への継承」

※第一分科会で「保存活動における行政との関わりについて」と題して報告
(佐藤宗達・小山信雄運営委員)

9/7：フィールドワーク(館山海軍航空隊跡、アメリカ占領軍上陸地、青木繁『海の幸』誕生の家、特攻隊『桜花』下滝田基地跡など)

◇第9回日吉フェスタ：2015年10月3日(土) 慶應義塾大学

日吉エイジ主催(学生と地域住民参加の事業)書籍販売・キャンパスツアー
2回実施(参加者41名)

- ◇バスツアー：2015年11月8日(日) 参加者27名
 コース：日吉駅—海軍蟹ヶ谷通信隊跡—野川神社慰霊碑—戦災供養地蔵(梶ヶ谷)
 —陸軍弾薬庫跡(こどもの国)—海軍気象部(大倉山記念館)—日吉駅
- ◇第23回横浜・川崎平和のための戦争展開催：2015年12月5日(土)—6(日)
 展示会、若者の発表、シンポジウム (慶應義塾日吉キャンパス来往舎)
 日吉台地下壕保存の会資料集1『日吉は戦場だった』発行
- ◇第10回公開講座：2016年3月19日(土)(来往舎シンポジウムスペース)
 『アジア・太平洋戦争末期の日本海軍』講師：吉田裕氏(一橋大学教授)
- ◇港北区地域のチカラ応援事業
 公開提案会 2015年4月25日(土) 港北区役所4階1・2号会議室
 中間報告会 2015年10月31日(土) 慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎
 最終報告会 2016年3月12日(土) 港北区役所4階1・2号会議室
- ◇ガイド養成講座：第9期 2015/1-5 修了者6名、第10期 2016/1-5 修了者12名
 ※2016年3月12日(第10期3回目)に、元海軍通信兵・「瑞鶴」乗組員の近藤恭造さんの講演会を開催
- ◇聞き取り調査：日吉台地下壕勤務の暗号兵、通信兵、理事生の方々の聞き取り調査を行った。
- ◇新聞記事等：2015年6月23日の「報道関係者向け特別公開」により、当日夕方のTV番組(NHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日等)、翌日以降の各紙(朝日、毎日、読売、日経、神奈川、東京新聞等)で大きく取り上げられた。

2016年度 運営委員・会長・副会長・会計監査・顧問

会長 阿久沢 武史

副会長 新井 揆博 亀岡 敦子 長谷川 崇 羽田 功

運営委員 石橋 星志 上野 美代子 遠藤 美幸 岡上 そう
 岡本 秀樹 喜田 美登里 木村 航 小山 信雄
 櫻井 準也 佐藤 宗達 杉山 誠
 鈴木 清俊 谷藤 基夫 常盤 義和
 中沢 正子 宮本 順子 茂呂 秀宏
 山田 譲 山田 淑子 渡辺 清

会計監査 熊谷 紀子 山口 園子

顧問 鮫島 重俊 白井 厚
 東郷 秀光



議長を務める佐藤宗達運営委員

2015年度 決算報告

(単位 円)

費目	2015年度予算	2015年度決算	備考
【収入の部】			
会費	320,000	312,360	240名
見学会資料代	500,000	846,956	内訳別項
図書等頒布	100,000	209,790	
寄付金等	0	94,836	
港北区補助金	0	162,000	港北区地域のチカラ応援事業
繰越金	122,354	122,354	
計	1,042,354	1,748,296	
【支出の部】			
運営費	130,000	183,756	各種会合・打ち合せ等
事務費	120,000	207,931	事務用品費等
印刷費	70,000	93,298	会報・資料等
通信費	200,000	214,599	会報郵送費等
図書資料費	130,000	262,753	参考書籍 61,223 円、販売書籍 201,530 円
交流・交通費	100,000	132,242	全国集会・各平和展賛助金等
謝礼	50,000	95,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	200,000	0	
予備費	42,354		
計	1,042,354	1,189,579	
差引残高		558,717	

見学会開催費用内訳

収入の部		支出の部		
見学会費用	1,066,100	保険料		32,144
		案内経費		187,000
		※資料作成費		846,956
合計	1,066,100	合計		1,066,100

※資料作成費は2015年度決算の見学会資料代に計上しています。

以上の通り報告します。

2016年6月4日

日吉台地下壕保存の会

会計 亀岡 敦子



この報告により収支を監査したところ、適正に処理されていることを認めます。

会計監査 熊谷 紀子



会計監査 山口 園子



2016年度 予算 (単位 円)

費目	2016年度予算	備考
【収入の部】 会費	320,000	
見学会資料代	500,000	
図書等頒布	100,000	
寄付金等	0	
繰越金	558,717	
合計	1,478,717	
【支出の部】 運営費	130,000	各種会合・打ち合わせ等
事務費	120,000	事務用品費等
印刷費	70,000	会報・資料等
通信費	200,000	会報郵送費等
図書資料費	130,000	書籍・資料等
交流・交通費	100,000	全国集会・各平和展賛助金等
謝礼	50,000	講演・学習・調査等
冊子作成費	200,000	
予備費	478,717	
合計	1,478,717	

収入の部の会費は前年度実績をもとに計上しました。

2016年6月4日

日吉台地下壕保存の会運営委員会

2016年度 活動方針

日吉台地下壕保存の会は、1989年4月に慶應義塾の教職員と地域住民の有志約100名で発足し、今年で27年目を迎えます。この間、地下壕の調査研究と保存運動、見学会の開催、会報の発行などを活動の基本に据えながら、神奈川県内のみならず全国の戦争遺跡保存団体との連携も強めてきました。

昨年は戦後70年ということもあり、地下壕にこれまで以上に大きな関心が寄せられました。神奈川県立歴史博物館での特別展「陸にあがった海軍」や慶應義塾によるマスコミ特別公開などを通して、日吉に眠る戦争遺跡の存在が一般に広く知られるようになり、見学会の参加者は年間で3000人を超えました。加えて、横浜市港北区の「地域のチカラ応援事業」への参加、港北図書館との共催によるパネル展示会と講演会、「横浜・川崎平和のための戦争展」の開催、資料集『日吉は戦場だった』の発行など、私たちが社会に向けて発信する機会は確実に増えています。

こうした中、責任ある言葉で語るために必要なことは、まず私たち自身が真摯な態度で学び続けることだと思います。地上施設を含めた日吉地区の戦争遺跡の調査研究、戦争体験者からの聞き取り、公開講演会での第一線の研究者からの学びなど、活動の基盤になる学習や

研究成果を着実に積み重ねる一年にしていきたいと思えます。日吉は連合艦隊司令部が戦争末期の作戦を指揮した場であるとともに、空襲の被害を受けた場でもあります。学生が学ぶ場は、学生を戦場に送り出す場にもなりました。加害と被害、教室と戦場、戦争と平和——、戦争遺跡という窓を通して、私たちの歩いた道(歴史)を複眼的に見つめる、それはすなわち私たちの「いま」と「これから」を見つめるまなざしでもあります。

以上を踏まえ、2016年度の活動として、以下の方針を提案します。

活動方針

- 文化財指定早期実現を文化庁・神奈川県・横浜市に働きかけ、地下壕を保存する。
- 慶應義塾・横浜市・神奈川県・国への働きかけを、港北区民をはじめとする地域住民と協力して行う。
- 小・中・高校生及び広く一般市民などに対して平易でわかりやすい見学会を実施する。
- 戦争遺跡保存全国ネットワークの会員団体として、全国的な保存活動に参加する。
- 日吉台地下壕見学会の内容をより充実させるために、ガイド養成講座・講演会・学習会を開催し、運営する。
- 横浜・川崎平和のための戦争展を開催する。
- 神奈川県内の他団体と連携し、日吉台地下壕についての展示や講演を行う。
- 日吉台地下壕の学術調査・研究を深める。
- 運営委員会の活動をより一層充実させる。

日吉台地下壕保存の会会則の全部改正について

2016年6月4日 提案 日吉台地下壕保存の会運営委員会

(説明) 保存の会の現状の運営、活動等に合致させるため、会則の全部を改正するものである。

日吉台地下壕保存の会会則の全部を改正する会則

日吉台地下壕保存の会会則を次のように改める。

日吉台地下壕保存の会会則

(設立の目的)

第1条 日吉台地下壕及び海軍使用施設(以下「地下壕等」という。)を平和のための戦争遺跡として保存し、その意義を市民をはじめ多くの人々に広め、永く後世に語り伝えるため、日吉台地下壕保存の会(以下「保存の会」という。)を設立する。

(事業内容)

第2条 保存の会の事業内容は、次の各号のとおりとする。

- (1) 地下壕等の見学案内、見学ガイドの養成に関すること。
- (2) 地下壕等の調査及び研究に関すること。
- (3) 地下壕等についての資料収集及びパンフレット等の作成に関すること。
- (4) 地下壕等の保存に係る学習会、講演会、シンポジウム等の実施に関すること。



会則改正提案を行う山田淑子運営委員

- (5) 地下壕等の保存を関係各機関に働きかけること。
- (6) 地下壕等の保存・継承のため、平和資料館等の建設推進に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、保存の会の目的達成に関すること。

(会 員)

第3条 会員は、保存の会の目的に賛同するとともに、運営のための会費を納める個人とする。

(組織及び運営)

第4条 保存の会の運営は、運営委員によって構成される運営委員会が行う。

- 2 前項の運営委員は、会員の中から推薦及び立候補により選出し、総会において承認されたものとする。

(会長及び副会長)

第5条 会長及び副会長は、運営委員会において選出され、総会において承認されたものとする。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第6条 運営委員会の会議は、会長が招集し、統轄する。

- 2 会長は必要に応じ、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(庶務及び会計)

第7条 保存の会の庶務及び会計は、運営委員会が行う。

(会計監査)

第8条 保存の会に会計監査を置き、会計を監査し、総会に報告する。

(総 会)

第9条 保存の会の総会は、年1回開催し、前年度の活動報告、決算の承認及び今年度の活動方針、予算の承認を行うものとする。

- 2 保存の会の総会は、会長、副会長及び運営委員の選出に係る承認を行う。
- 3 前2項に掲げるもののほか、保存の会に係る必要な事項を検討及び決定をする。
- 4 保存の会の総会は、年1回の開催のほか、必要に応じて臨時に開催することができる。

(会 費)

第10条 保存の会の運営経費は、第3条の規定により会員の納める会費及びその他の収入によるものとする。

- 2 保存の会の会費は、年間、一口1,000円とし、一口以上とする。ただし、高校生以下の会員については、一口500円とする。

(顧 問)

第11条 保存の会は、運営委員会の推薦により顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、運営委員会の諮問により助言を行うものとする。

(補 則)

第12条 この会則に定めるもののほか、保存の会に関し必要な事項は運営委員会が別に定める。

付 則

この会則は、2016年6月4日から施行する。

記念講演

新井勝紘氏講演会「兵士の手紙を見る・読む・考える
— “命の便り” 軍事郵便からみえるもの—」の報告

副会長 亀岡敦子

6月4日午後、日吉台地下壕保存の会総会に先立って、新井勝紘氏の「軍事郵便」についての講演会が開かれた。兵士が軍隊から家族や友人たちに送った軍事郵便を、昨年まで教鞭をとっていた専修大学の学生たちと共に読み解くことによる、彼らの変化と成長の様子から、軍事郵便の歴史資料としての重要性を語った。

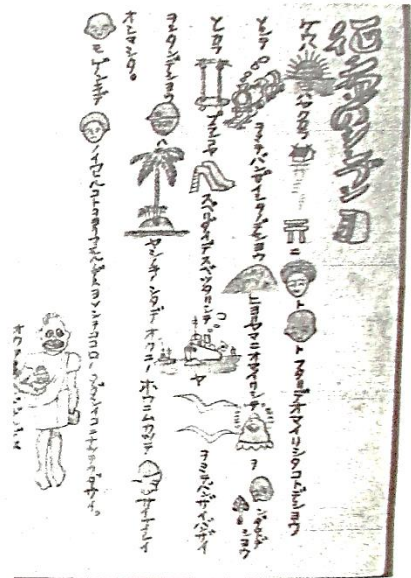
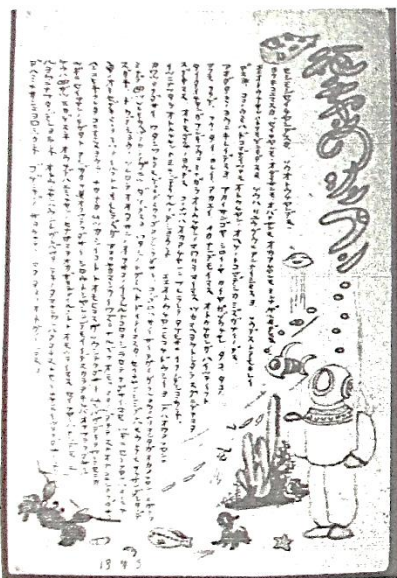
講演は、まず軍事郵便制度の歴史から始まった。郵便制度が始まったのが1874(明治7)年、その20年後に軍事郵便制度が定められ、軍隊内からは無料で手紙や葉書を出すことが出来るようになった。日清戦争時には内地からと戦地からの郵便合わせて約1,240万通、日露戦争時には4億5千万通もの手紙が交わされたとのこと。それが日中戦争・アジア太平洋戦争時には何十億通になるのか、数えることもできないほどだそうである。

戦争研究において軍事郵便があまり重要視されなかった理由のひとつは、手紙は個人的なものであり、しかも検閲があったために紋切り型が多く、それぞれの兵士の内面にまで迫ることが出来ないのではないかと、という点である。研究者もあまり多くはない。

そんな中、新井氏は専修大学文学部日本近現代史ゼミナールの学生と共に、2002年からゼミのグループワークとしてアジア太平洋戦争時の軍事郵便の解読に取り組んできた。最初は古くて読めない文字や言葉遣いに、興味を示さなかった学生たちも、割り当てられた手紙や葉書と取り組むうちに、姿勢が変わってきたという。それらは、否応なく戦場に駆り出された自分たちとほとんど同年代の兵士たちが、遠い外地の生きるか死ぬかの最前線で書いたものである。想像力を働かせて読んだとき、一枚のぼろぼろの葉書は、戦争の実相を語る得難い歴史史料となるに違いない。

また、新井氏は長い年月をかけて集めた貴重な軍事郵便の実物を机に並べ、手渡しで回覧し、実際に触れる機会を作ってくださった。几帳面な達筆で書かれた葉書や、幼い我が子にあてた、自作の絵入り葉書など、その中から兵士の姿が浮かび上がってくる。

いま、戦争を次世代に語り継ぐことは、至難の業であるといわれている。手紙や日記などを入り口にして、その個人を念入りに知り語ることで、戦争とは人間の命の破壊であり、その家族や友人の破壊であり、未来の破壊である、ということが伝えられる。戦争遺跡を入り口にして私たちが活動も、後押しをされたように思えた嬉しい講演会であった。



報告

2016年第10期ガイド養成講座終了

運営委員 佐藤宗達

今期は11名の方が受講、5月14日に修了しました。皆勤の方が5名おられ、定例見学会ガイド補助にも熱心に参加してくれました。今期は体験談を2回聞くことができ充実した講座でした。第2回講座：2月6日開催。見学会の実際という事で5年かけて編集された「見学会ガイドの手引き」にそって見学会の流れを説明しました。その後、阿久沢会長よりパワーポイントによる第一校舎の解説がありました。第3回講座：3月12日開催。海軍通信兵・近藤恭造さんの体験談をお聞きしました。詳細は会報125号ご参照ください。第4回講座：4月9日開催。午前はフィールドワークで人事局地下壕、航空本部地下壕の出入口などを見て廻りました。午後は駆逐艦「雪風」元乗組員・西崎信夫さんの体験談をお聞きしました。詳細は次号でお伝えする予定です。第5回講座：5月14日開催。茂呂さんから「ガイドで伝えたいこと」の説明があり、その後、受講生の方々からの感想、質疑応答があり、最後に阿久沢会長から受講生の皆様に修了書が手渡され、ガイド養成講座は終了しました。



第10期ガイド養成講座（第五回目）

寄稿

ガイド養成講座に参加して

木村 航

昨年の12月、私は初めて地下壕に入った。私が勤務する慶應高校では、月に一度、定例の見学会を行っており、それに参加したのだ。この経験は私にとって非常に大きなものだった。「今求められ、自分がやらなければならないことこそ平和教育だ」、そう感じた瞬間だったのだ。ガイド養成講座では「特年兵」であった二人のお話が印象深かった。特に「生きて帰ってきなさい」というお母さまとの約束を守った西崎さんのエピソードに心打たれた。志願に反対するお母様を担任の先生が説得されての出兵だったというが、高校生よりも幼い彼らの動員に学校も関係していたという事実を改めて確認させられた。西崎さんはまた、人間魚雷に乗る同年代の予科練生が、気を紛らわすため、山に登り、枝をめちゃくちゃに切るという話もされていた。彼らの境遇を思うと言葉がない。悲惨な経験をした人は口を閉ざすという。言葉でその事象を表現しきれない分だけ、事実が矮小化され、忠実に伝えられない。ゆえに発話を恐れるのだ。だからこそ、我々は語られた当事者の「重い言葉」に敬意を払い、それ

を理解し、また伝えようと努力を続けるべきなのだ。しかしながら、昨今、日本社会で「言葉の軽さ」が目立つ。「秘密保護」という名の秘匿、「解釈」という名の憲法改悪、「防衛装備」という名の武器輸出。戦後、教育界では「教え子を戦場に送るな」という理念のもと、70年間歩んできたはずだ。教育に携わる者として今回、その責任の重さをあらためて痛感した。講座で学んだことと、戦争体験者の方からいただいた数々の言葉を胸に刻み、自分のできることを積み上げていきたい。



阿久沢会長から修了証書を受け取る木村航さん

寄稿

「第21回2016平和のための戦争展 in よこはま」の報告

平和のための戦争展 in よこはま事務局・本会会員 吉沢てい子

5月28日から6月1日までの5日間、「2016平和のための戦争展 in よこはま」をかながわ県民センターで開催しました。21回目の今年の主な特徴は①世代を超えて戦争と平和を考える②憲法公布70年③氷川丸からのメッセージなどです。

①小山内美江子実行委員長は若い世代の参加と語らいを常々希望されていましたが、今年は1校増え、中高3校の朗読劇や研究発表が行われました。

中学生の朗読劇「証言・横浜大空襲」は、今年は顧問の山田先生の異動に伴い、日吉台中学校演劇部が行いました。横浜を焦土と化した大空襲、そこに生きた人々のそれぞれの人生に思いを馳せ演じた中学生の朗読劇。2か月弱の練習期間にもかかわらず、参加者に感動を与えました。

Y校生「グローカリー」はY校周辺に墜落したB29の米軍人に地元住民や憲兵はどう対応したかなどについての聞き取り活動の報告でした。足元から過去・現在・将来を考える手掛かりにできればとの思いで取り組んだと言います。

今年は桐蔭学園高校女子部 TEAM P. O. W. の「戦争捕虜へのメッセージ」と題しての研究発表も行われました。きっかけは、12月5日の横浜・川崎平和のための戦争展の若者の発表でした。是非「in よこはま」でもとお願いし発表となりました。日本軍はなぜ捕虜を虐待したのか、その原因を掘り下げ、捕虜や戦犯が二度と生まれることのない世界を目指す決意を込めて発表されました。

これら若者のとりくみの新聞報道は反響があり、背中を押された82歳の空襲体験者から「体験を初めて話そうと思った」との電話や横浜ローザを演じている五大路子さんから「中高生と交流したい」との連絡が入り、会場で繋がりました。

②憲法制定当時を題材に「憲法はまだか」の脚本を書いたジェームス三木さんは「押し付け憲法と言われるが、それなら民主主義も基本的人権も押し付けとなるが、こんなすばらしい憲法はない。アメリカの憲法よりずっといい。71年間一人も殺していない」と講演。展示会場では「日本国憲法をいま考える」コーナーを設けるとともに、69年前、憲法普及会

が2千万部発行し各家庭に配布した「新しい憲法 明るい生活」の復刻版を販売しました。憲法の初心がわかり好評でした。

③横浜港に係留されている氷川丸は今年86歳。近々、重要文化財に指定される予定です。昨年アニメ映画「氷川丸ものがたり」を作られ、その原作者の伊藤玄二郎さんに「氷川丸からのメッセージ」を講演していただきました。「戦時中は病院船で、多くの傷病兵を乗せた。たとえ米兵であっても、国際赤十字の精神に基づき命を救った。平和の船として存在感がある。氷川丸の歴史を知るとは日本の近現代史を知ることにもなる」。太平洋戦争で民間船舶1万5千余隻が撃沈され、6万人余の船員が海の藻屑となった中で、氷川丸が生き残れたのは、軍隊や武器弾薬の緊急輸送の協力を求められても、歴代の船長や病院長が病院船としての矜持を堅守し退けたからだと言われています。

杉原千敏のビザ発給ユダヤ人も乗せ命を救った船、平和の船としての役割を貫いた歴史の生き証人としてこれからも横浜港に輝いてほしいと思います。

戦争の記憶を風化させず、事実を知り、本質を明らかにすること—それは戦争を起こさない平和な未来への力。これからも世代を超え連携し築いていきたいと思います。



連載

海外の戦跡めぐり (3) 中国・北京の受難

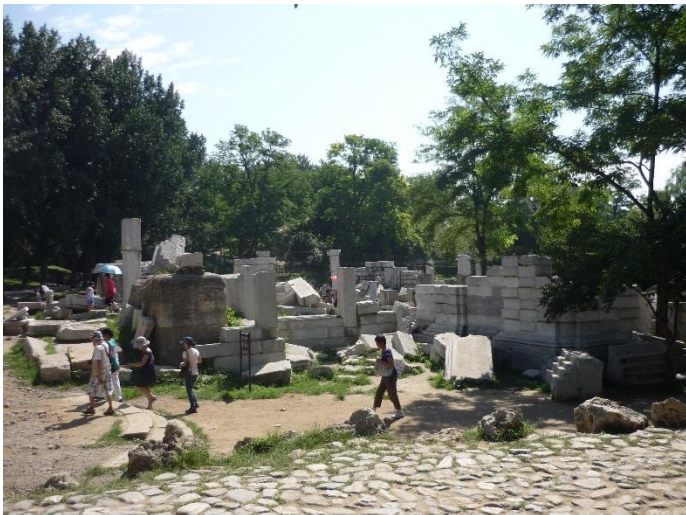
運営委員 佐藤 宗達

中国は19世紀から列国の侵略を受け各地で外国軍との戦闘が続いた。海からの攻撃になるので海岸線での戦いだが内陸の北京(時代によっては北平)も戦場となった。

(1) 第二次アヘン戦争(アロー号事件) 1856年広州港に停泊中の英国国旗を掲げた小帆船アロー号の臨検問題から中国(当時:清国)と英国・仏国とで戦争となり、1860年英仏連合軍が北京に入城、北京条約を締結した。連合軍は北京・円明園で狼藉の限りを尽くし仏国軍は金目のものを略奪、英国軍は捕虜が虐待されたことに対する復讐として徹底的に破壊した。その際、円明園から略奪された宝物は大英博物館など主にヨーロッパ各地の博物館に所蔵・展示されている。円明園はその後も荒廃したまま放置されていたが1984年に遺跡公園建設が始まり一部の地域が修復、整備された。2009年からは国家プロジェクトとして復元工事が始まった。円明園を訪れると破壊されたままの状態の遺跡があり、わざと廃虚として残しているのか、復元が追いつかないのか複雑な気持ちになります。

(2) 義和団事件(北清事変) 映画「北京の55日」はこれを題材にしております。1899年白蓮教系の秘密結社である義和拳教徒を中心に組織された自衛団がキリスト教及び列国の

中国侵略に反抗、山東省で蜂起した。1900年西太后がこの反乱を支持して清国が欧米列国に宣戦布告、義和団は北京に入城、各国公使館区域を包囲した。それに対抗するため日本・英国・仏国・米国など8ヶ国は連合軍を組織してこれを鎮定、1901年北京議定書が締結された。戦勝国軍は戦利品を略奪、多くの財宝を持ち去った。なお日本軍は指揮官・柴五郎中佐が軍律を厳守、略奪には参加しなかったそうです。略奪の例として故宮の保和殿前にある鉢は鍍金されていたので金を剥ぎ取り持ち去った。鉢は今でも保和殿前にあり表面には削った跡が残り、把手など剥ぎ取れなかった部分には鍍金が残っており、今でも光っております。もっともこの鉢も第二次アヘン戦争時にすでに略奪を受けていたかも知れません。



破壊されたままの円明園



鍍金を削りとられた鉢

報告

「平成28年度地域のチカラ応援事業チャレンジコース」 結果報告

運営委員 小山信雄

昨年に引き続き今回で3回目、本年度も港北区地域のチカラ応援事業「チャレンジコース」に、事業名「日吉台地下壕見学会のガイド養成（人材育成）」に応募し、5月に補助金交付決定通知を頂きました。私達の会は今年で27年目を迎え、昨年未迄に約3万人の見学者を数えました。2009年には3,000名近くまでとなりましたが、見学者に対応出来るガイドの人数不足により、2010年以降は2,000名以上の見学者を呼ぶことが難しくなっていました。

特に昨年は「戦後70年」という節目の年を迎えていることもあり、「戦争」に対する関心の高まりから見学希望者が増加傾向となっているため、新しいガイドの養成は喫緊の課題です。今年度以降も、毎年ガイド養成講座を開催し、ガイドの人数を増やし、見学会の回数・見学者を増やし、同時に全ガイドの質の向上を図って、日吉台地下壕を一人でも多くの人に知ってもらえるよう努力します。

今回の決定、及び懇話会委員の皆様からの厳しく暖かい励ましの言葉をより一層の励みとして、私達は、これからも港北区の地域の学び場の一つとして、港北区のみなさまをはじめ、たくさんの方々への広報に努め、地道に活動を継続してゆきます。



公開提案会（港北市役所会議室）

お知らせ

港北図書館でパネル展&講演会を開催します!

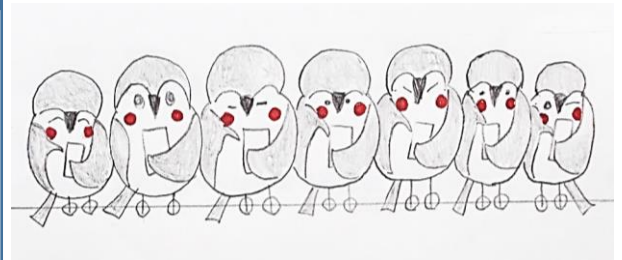
運営委員 小山信雄

7月20日(水)から8月14日(日)迄、港北図書館のご協力を頂き、菊名の横浜市港北図書館1階の“港北まちの情報コーナー”にて“日吉台地下壕パネル展”を開催します。昨年8月に第二回目を開催し、連日大勢の方々に見学頂き、地下壕に対する関心を深めて頂きました。日吉の大学キャンパスに残る貴重な戦争遺跡について、少しでも多くの方々に知って頂き、戦争や平和について見つめ直す一助になればと願っています。8月7日(日)10:30から同図書館2階の会議室で講演会も行います。今回は、中高生向け特別授業として“日吉台地下壕を知っていますか”と題し講演会も行いますので、多くの中高生の方々の参加を期待しています。

チョットひと休み

「最近見た珍百景・その1」 副会長 長谷川崇

地下鉄の車内で8人掛けの7人が、全員顔をやや下目で左手にスマホ。右手の親指と人差し指で、それぞれの動きを見ていると、スズメの学校の生徒だよと。「私も一羽のスズメですが大分違いますよ」と。



総会後の懇親会(慶應義塾大学日吉の食堂にて)



日吉台地下壕保存の会資料集 1

『日吉は戦場だった 一三度にわたる日吉の空襲の記録—』 頒布のお知らせ

日吉台地下壕保存の会は、2008年から09年にかけて、日吉在住の9人の方々から空襲に関する聞き取りをし、その聞き取りを中心に調査研究報告も含めた42ページの資料集にまとめました。購入ご希望の方は以下の要領でお申し込みください。

- 1) 頒価 1冊300円(送料込みで400円)、青色振替用紙を同封します。
- 2) 申込み 亀岡敦子・喜田美登里(住所と電話番号は次頁ご参照下さい)

活動の記録 2016年4月～6月

- 4/13 定例見学会 54名
 4/17 ガイド学習会(菊名フラット)
 4/20 運営委員会(来往舎205号室)
 4/22 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(かながわ県民センター)
 4/23 定例見学会 64名
 4/26 会報125号発送(来往舎205号室)
 5/11 地下壕見学会 滋賀県立栗東西中学校3年生・先生 2クラス70名
 5/12 地下壕見学会 同 2クラス70名
 5/16 地下壕見学会 港南区中途失聴難聴者協会 10名
 5/14 ガイド養成講座⑤(来往舎中会議室)第10期修了者11名
 5/17 運営委員会(来往舎205号室)
 5/20 平和のための戦争展 in よこはま実行委員会(かながわ県民センター)
 5/28 定例見学会 53名
 5/28～6/1 第21回 2016 平和のための戦争展 in よこはま 開催
 28・29日 講演・報告・朗読劇 30・31・1日 展示(横浜大空襲・日吉台地下壕他500点) 来場者約1500人
 6/1 地下壕見学会 早稲田大学オープンカレッジ講座 18名
 6/4 日吉台地下壕保存の会2016年度総会(来往舎シホ・ジウムスペース)
 ○記念講演 「兵士の手紙を見る・読む・考える“命の便り” 軍事郵便からみえるもの」講師 新井勝紘さん(専修大学元教授)
 総会后 懇親会(生協麺コーナー)
 6/8 定例見学会 52名
 6/13 日吉地区センター講座①(座学) 42名(日吉地区センター)
 6/14 運営委員会(来往舎205号室)
 6/15 平和のための戦争展川崎・横浜実行委員会(法政第二高校教育研究所)
 ★予定 7/9 会報126号発送

★定例見学会について

定例地下壕見学会は毎月2回実施しています。

原則として、毎月第2水曜日10時～12時30分・第4土曜日13時～15時30分
 (6月17日現在、7月の見学会は定員を超えました。8月10日(水)は募集中。)

★夏休み見学会の予定

夏休みの見学会は7/30(土)午前・午後 8/1(月)・8/4(木)・8/6(土)午前
 (7月30日午後・8月4日・は締切りました。)

★地下壕見学会は予約申込みが必要です。

お問い合わせは見学会窓口まで Tel1045-562-0443 (喜田 午前・夜間)

連絡先(会計) 亀岡敦子: 〒223-0064 横浜市港北区下田町 5-20-15 Tel 045-561-2758

(見学会・その他) 喜田美登里: 横浜市港北区下田町 2-1-33 Tel 045-562-0443
 ホームページ・アドレス: <http://hiyoshidai-chikagou.net/>

日吉台地下壕保存の会会報 (年会費) 一口千円以上
 発行 日吉台地下壕保存の会 郵便振込口座番号 00250-2-74921
 代表 阿久沢 武史 (加入者名) 日吉台地下壕保存の会
 日吉台地下壕保存の会運営委員会